

「平成30年度食品安全委員会運営計画」補足資料

平成30年1月
情報・勧告広報課

目次

ページ

- 1 インターネットを通じた情報の発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 紙媒体を通じた情報の発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 関係機関・団体と連携した科学的な知識の普及啓発・・・・・・・・・・ 3

インターネットを通じた情報の発信

現状

ホームページ

- 食品健康影響評価の結果、食品の安全に関する最新の情報や委員会の開催状況等について、情報提供

Facebook

- 機動的な情報発信を行うため、投稿指針を整備し、月12記事を目安に発信

	27年度	28年度	29年度 (4~12月)
記事数	113	151	141
閲覧者数	411,810	490,246	511,117

ブログ

- 基本、Facebookに掲載した記事を発信

メールマガジン

①読み物版

- 月に1つ、実生活に役立つ食品安全に係るテーマを設定し、2度に分けて情報及びそれに係るQ&Aを発信

②Weekly版

- 毎週1回、食品安全委員会の活動状況を発信

YouTube

- 食品安全委員会主催講座(①精講、②みんなのための食品安全勉強会)の開催動画を掲載

課題

ホームページ

- 消費者のニーズにあったページ等の創設が必要
- より見やすい改訂が必要

Facebook

- 読者が関心の高い記事について、発信頻度を増やす必要
- 日本在住の外国人や海外の人に役立つ記事については、英語での発信が必要

ブログ

- ブログの特性を活かした記事を厳選して発信する必要

メールマガジン

①読み物版

- 登録者数が伸び悩んでおり、他の媒体とも連動したより効果的な情報提供が必要

②Weekly版

- 登録者数が頭打ちとなっており、掲載内容の厳選化が必要

YouTube

- 講座の動画は、復習用や参加できない者に役立つ一方、手軽に勉強したい者には長すぎる

対処方針

ホームページ

- キッズボックスの記事の充実
- 専門調査会をわかりやすく紹介したページの新設
- 過去の情報の整理

Facebook

- 投稿指針等を踏まえ、適時・適切な記事を発信
- 特に、①機動的対応が必要な健康被害案件の発信の他、②季節性のある注意喚起、③食品安全に係る科学的知識の普及など、読者が関心の高い記事を発信
- 必要に応じ、英訳の記事を発信

ブログ

- メールマガジン「読物版」で配信した内容をはじめ、食品の安全に関する情報提供を実施

メールマガジン

①読み物版

- テーマ設定に当たっては、デルファイ法の結果も踏まえるとともに、キッズボックスを子どもに説明するときの参考として利用できるよう、キッズボックスのテーマと連動させる

②Weekly版

- 食品安全委員会の活動状況をより簡潔に発信

YouTube

- 食品安全委員会主催講座の開催動画を掲載
- 動画での提供に適した情報について、動画用コンテンツの作成を検討

紙媒体を通じた情報の発信

現状

季刊誌：食品安全（冊子）

- 年4回発行（7, 10, 1, 3月）
- 消費生活センター、地方公共団体、図書館、教育委員会、関係団体等へ配布
- 主な記事
 - ① 特集
 - リスク評価結果やファクトシートの内容等について紹介
 - ② リスク評価の窓
 - 専門調査会等の説明及び専門調査会座長等の寄稿
 - ③ トピックス
 - 食品安全委員会の新たな取組等の紹介
 - ④ リスクコミュニケーション
 - 各種意見交換会等の結果報告
 - ⑤ キッズボックス
 - 小学校高学年を対象とした食品安全に係る情報提供
 - ⑥ 委員の視点
 - 食品安全委員会委員による寄稿

食品安全委員会（冊子）

- 食品安全委員会を紹介する冊子について、日本語版及び英語版を作成・配布

その他

- 必要に応じて、冊子等を作成
例：「健康食品」についての冊子、パンフレットを作成・配布

課題

季刊誌：食品安全（冊子）

- 内容の難易度の幅が大きい

特集記事	キッズボックス
薬剤耐性菌の評価	サプリメント
食安委の国際的な取組等	加熱調理
食品中のカフェイン	ジャガイモ
フモニシン、ボツリヌス症	ジビエ

- 特に、④リスクコミュニケーションについては、情報提供のタイミングが遅れる場合も
- 食品安全モニターへのアンケートでは以下の意見
 - キッズボックスが良い
 - 内容（特集）が難しすぎる
 - 総集編があればよい
- 配布先に紙媒体での必要性をアンケート調査したところ、「約3分の2以上から回答が無く、回答のあった約半数は不要」との結果

食品安全委員会（冊子）

- 作成から2年がたち、内容の更新が必要

その他

- 評価結果や自ら評価案件の選定結果を踏まえ、紙媒体の情報発信記事を選定する必要

対処方針

年誌（冊子）

- 食品安全委員会運営状況報告に基づき、食品安全委員会の1年間の取組を、写真や図表等も交えて、わかりやすく冊子にまとめ、広く国民に情報提供を実施
- 季刊誌に掲載していた、①特集、③トピックス、④リスクコミュニケーション、⑥委員の視点については、体系的に整理し、盛り込む

※②リスク評価の窓については、ホームページに専門調査会等についてわかりやすく説明するページを新設することで対応

※リスクコミュニケーションの結果等については、まず、Facebookやホームページで速報を流す

キッズボックス（リーフレットor冊子）

- 学校教育関係者や小さな子どもを持つ親に人気が高いため、掲載頻度を増やす
- メールマガジンのテーマと連動させる
- ニーズのある現場に配布

食品安全委員会（冊子）

- 日本語版及び英語版を最新情報に改訂し、意見交換会や関係者との交流等において配布

その他

- 情報提供すべき主たる者に対し、紙媒体での情報提供が効果的である場合、配布形態も含め波及効果を検討の上、冊子等を作成・配布

関係機関・団体と連携した科学的な知識の普及啓発

現状

主催:

	対象者	内容	募集人数	場所
精講	事業者 研究者	アクリル アミド	30名程度	東京 大阪
みんな	消費者	カフェイン 食品安全	100名程度	東京 札幌

連携(協力)

(1)リスク管理機関

- リスク管理機関と連携し、「食品安全」「放射性物質」「健康食品」について、全国で意見交換会を開催
- 消費者庁とこども霞が関デーを共催

(2)地方公共団体

- 学校教育関係者を対象に、共催で意見交換会を実施(全国7か所)
- 自治体の要望に応じ、講師派遣を実施

(3)マスメディア・消費者団体・事業者団体・関係職能団体

- マスメディア・消費者団体と年3回程度意見交換会を実施
- 消費者団体の要望により講師派遣を実施
- 事業者団体、関係職能団体と意見交換

(4)学術団体

- 学会発表と連動したブース展示を実施

課題

主催:

- デルファイ法の結果、情報提供すべきと考えるテーマが専門家とそれ以外の者でずれ
- みんなのための食品安全勉強会について、期待する参加者と実際の参加者にずれ

連携(協力)

(1)リスク管理機関

- リスク評価に基づくリスク管理の実施について、より理解の推進が必要

(2)地方公共団体

(3)マスメディア・消費者団体・事業者団体・関係職能団体

- 地方公共団体、消費者団体、事業者団体、関係職能団体が、食品安全委員会と意見交換会を実施しやすい仕組み作りが必要
- 参加者が、各々の関係者に意見交換会で得た情報を波及させる仕組み作りが必要

(4)学術団体

- 各学会の専門性に応じた展示内容が必要

対処方針

主催:

- テーマ選定にあたっては、デルファイ法の結果を踏まえる
 - みんなのための食品安全勉強会では、必ず「リスクアナリシスの基本・概念」を説明
 - 自然毒による食中毒について情報提供を実施
- 高校や大学の訪問学習を積極的に受け入れ、若者の摂取に見合った情報提供を実施

連携(協力)

(1)リスク管理機関

- テーマごとに、食品安全委員会の立場を明確にし、必要な情報提供等を実施
- 引き続き、こども霞が関デーを消費者庁と共催で実施することを検討

(2)地方公共団体

(3)マスメディア・消費者団体・事業者団体・関係職能団体

- 食品安全委員会が対応できる意見交換会や講師派遣の内容をメニュー化し、各団体に提供
- 知識の提供だけでなく、知識の伝え方についても、他地域の取組も含め、参加者に提供
- 参加者が実地で活用できるよう、リスクアナリシスの基本・概念についての資料を提供
- 学校教育関係者が指導の際に活用できる食品安全に関する教材(副読本)の作成に着手

(4)学術団体

- 引き続き、関係学会の専門性に依りて発表と連動したブース展示を実施